

# 平成25年度 上田市教育行政に係る事務の点検及び評価報告書

## 上田市教育行政評価懇話会

第1回 平成26年7月 2日(水) 午前10時～午前12時

第2回 平成26年7月10日(木) 午後1時30分～午後3時30分

第3回 平成26年7月25日(金) 午前10時～午前12時

上田市教育委員会

## 目 次

趣旨		1
上田市教育行政評価懇話会		1
評価の方法		2
評価の結果及び懇話会の提言内容等		
1 上田市教育支援プランの推進		
学ぶ意欲を育む授業づくり	学校教育課	3
きめ細やかな個に応じた指導の充実	学校教育課	4
地域に信頼され、地域に開かれた学校づくり	学校教育課	5
2 学校施設の耐震化推進と教育環境の整備		
小中学校施設耐震化事業	教育総務課	6
小中学校施設整備事業	教育総務課	7
放課後児童クラブ施設整備事業	学校教育課	8
3 文化芸術活動の拠点づくりに向けた環境整備と地域文化の継承		
市民参加と協働による文化芸術拠点の創造	文化振興課	9
子どもたちと文化芸術との出会いの場づくり	文化振興課	10
史跡等整備事業	文化振興課	11
博物館における学習機会の提供	博物館	12
4 生涯学習の推進による地域の教育力の醸成		
社会教育施設整備事業	生涯学習課	13
地域が学校を支援する事業	生涯学習課	14
青少年健全育成の推進	生涯学習課	15
人権同和教育推進事業	生涯学習課	16
5 生涯スポーツ活動の推進とスポーツ環境の整備		
生涯スポーツ活動の推進	スポーツ推進課	17
総合型地域スポーツクラブ支援事業	スポーツ推進課	18
スポーツ施設整備事業	スポーツ推進課	19

## 趣旨

平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」において、各教育委員会は効果的な教育行政の推進を図り、住民への説明責任を果たしていくため、教育に関する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を毎年行うことになりました。

そのため、法改正の趣旨に鑑み、平成20年度から目標管理制度において設定した教育委員会の重点事業について、自己点検及び自己評価を行い、上田市教育行政評価懇話会において、有識者から提言をいただいています。これらの評価の結果や懇話会における委員からの意見は、今後の教育に関する事業の改善に役立てていきます。

## 上田市教育行政評価懇話会

平成25年度重点事業の評価の結果等について、有識者からの意見を聞くため、本年度は、7月2日、7月10日、7月25日の3回にわたって上田市教育行政評価懇話会を開催しました。

なお、委員には、上田市の教育に携わった経験があり、専門的な観点からの意見を期待できる次の7人に就任を依頼しました。

(敬称略)

氏名	略歴	備考
廣川 岩男	上田市少年補導委員、 元教育参事、元清明小学校長	座長
金子 泰子	元上田市教育委員	副座長
犛山 永子	上田市社会教育委員	
片桐 恭子	第三中学校評議員、上田地区更生保護サポートセンター 企画調整保護司	
川上 元	上田市文化財保護審議会委員、 長野県文化財保護協会常務理事	
関 和弘	上田市スポーツ推進委員会 会長	
早坂 淳	長野大学社会福祉学部社会福祉学科准教授	

## 評価の方法

平成25年度重点事業の年度末における目標の達成状況について、AからDまでの4段階による評価を行いました。

### 【総合評価】

ランク	内 容
A	目標を上回る成果があった。
B	目標どおりの成果があった。
C	目標未達成の部分があった。
D	全ての目標が未達成であった。

## 評価の結果及び懇話会の提言内容等

平成25年度重点事業の評価の結果及びこれに対する懇話会の提言内容等は、事業評価シートに記載のとおりです。

## 平成25年度 事業評価シート

1 -

事業名	学ぶ意欲を育む授業づくり	担当課	学校教育課
当初目標	「学力の向上」と「不登校児童生徒対策」の取組として、中学校4校に専科教員を配置し、中学校教員が小学校に出向いて授業を行うことで、中学進学への不安解消と学習意欲の向上を図ります。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	小中連携教員の配置(5人)	9,885	
	児童アンケートの実施(2回)	0	
目標の達成状況	<p>数学の専科教員を中学校に5人配置し、中学校の教員が同じ中学校区の小学校9校へ出向き授業を実施しました。また、専科教員を配置していない中学校でも小学校へ出向き授業を行いました。</p> <p>アンケート調査では、領域別で見ると、「面積の学習」、「体積の学習」、「文字と数式の学習」、「話し合う学習」において、苦手とする割合が減って好きとする割合が増えています。このことから、中学校の教員の指導が児童の算数への興味意欲を高め、熱心な学習の取組につながったと考えます。</p> <p>また、中学校の教員と授業を通してふれあうことにより、「中学の先生は怖い」というイメージが解消され、中学校の先生がより身近な存在になるなど、中学進学への不安軽減につながりました。</p>		

総合評価	B		
今後の課題等	中学校の教員が小学校に出向き授業を行うことで、小学校の児童の学力向上につながったか、中一ギャップの解消に効果的であったかどうか、今後も継続して実施し、結果を検証していく必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>中学校教員が小学校へ出向き授業を行うことは、小中学校双方の教員の指導力向上につながる取組です。加えて、中学校においては、来年度に入学する児童の実態(特別な支援を必要とする児童の状況など)を把握することもできるため、非常に意義のある取組であると評価します。</p> <p>中学校教員が小学校へ出向いて授業を行う取組によって、学力をとらえる一つの尺度である関心・意欲は高まっていることから、学力の向上が図られているものと考えます。</p> <p>専科教員が配置されていない学校や算数以外の教科についても、小中連携の取組を広められることを期待します。予算措置も必要なことから難しい面があるが、数学における専科教員の配置については効果が認められることから、少なくとも現状が維持されることを望みます。</p>	
	意見に対する考え方	<p>中学校の教員が小学校に出向き、小中の教員が連携しながら指導方法を工夫した授業を行うことによって、互いの授業改善や指導力向上につなげるとともに、この取組を通じて、児童の算数の学力と学習意欲の向上を図ります。</p> <p>また、児童が中学校の教員と授業を通してふれあうことにより、中学校に関するさまざまな情報を得たり、面識がある先生が中学校にいるという安心感から、中学進学へのスムーズな流れができると考えます。さらに、中学校の教員が授業中の児童の様子を見ることや小学校の教員から児童に関する情報を得ることにより、学級編成や中学校進学後の個別支援にも役立てています。</p> <p>数学の専科教員を中学校に5人配置し、中学校の教員が同じ中学校区の小学校9校へ出向き授業を実施したほか、ALTが小学校を訪問して英語の授業を行ったり、テスト期間中を利用して、中学校の教員が小学校へ出向いて体験授業を行う等の取組も行っています。</p> <p>また、小学生が中学校で実際に授業を受ける体験入学や交流事業も実施しています。</p>	
今後の方針等	「学力向上」と「不登校対策」の課題に取り組むため、小中連携教員を継続して配置します。また、単に連携教員の数を増やすのではなく、小中学校の教職員が教材研究や指導方法を共同で検討することを通じて、授業改善を進めるとともに、連携教員の配置されていない学校においてもさまざまな機会を作りながら、小中連携事業に取り組んでいきます。		

# 平成25年度 事業評価シート

1 -

事業名	きめ細やかな個に応じた指導の充実	担当課	学校教育課
当初目標	<p>心の教室相談員29人と特別支援教育支援員54人を配置し、不登校や特別な配慮が必要な児童生徒を支援します。加えて、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーを各1人配置するとともに、教職員に対しカウンセリングマインド研修会を開催します。</p> <p>市内4園の保育士が小学校を訪問し、授業参観等を通じて教員との交流を図り、情報交換を実施します。</p>		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	心の教室相談員事業	23,658	
	特別支援教育支援員事業	43,056	
	スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー活用事業	2,927	
	不登校児童生徒に関わる研修会(2回)	70	
	保育士を小学校に派遣(幼保小の連携)	0	
目標の達成状況	<p>「心の教室相談員」を36校に29人、「特別支援教育支援員」を35校に57人配置し、個に応じた支援を進めました。また、上田地域定住自立圏共生ビジョンの取組により、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーを各1人配置し小中学校に派遣しました。教職員に対しては、児童生徒を理解し適切に対応するためのカウンセリングマインド研修会を2回開催し、351人の参加実績を得ました。</p> <p>また、1学期において、4小学校で保育士と教員が交流及び情報交換を行ったことにより、必要な支援や教育等の共通理解が得られてきました。</p>		

総合評価		B
今後の課題等	<p>学校には配慮が必要な多くの児童生徒が在籍しており、個に応じた支援体制を整え継続した支援を行っていく必要があります。また、家庭や児童生徒の課題が複雑化しており、関係機関等との情報交換や個別支援などについて一層の連携を図ることが重要です。</p> <p>子どもの成長・発達段階に応じた支援や教育が行えるよう、保育士と教員による情報交換等を継続的に実施していく必要があります。</p>	
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>心の教室相談員や特別支援教育支援員に加え、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーを配置し、児童生徒の支援に取り組んでいることは評価できます。特にスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーについては、研修の実施などサポート体制を構築していくことが今後の課題であると考えます。</p> <p>特にこの取組については、支援を受けている児童生徒や保護者の視点からの評価(意見)も踏まえ、成果や課題を明確にした上で自己評価を行う必要があると考えます。</p> <p>児童生徒の不登校にはさまざまな原因があるが、相談に当たっては児童生徒の意見が尊重されることを望みます。</p>
	意見に対する考え	<p>児童生徒が日頃から気軽に相談できる環境を作るため、心の教室相談員やスクールカウンセラーを配置し、相談支援体制の充実を図ります。また、特別な支援を必要とする児童生徒に対応するため、特別支援教育支援員を配置し、支援体制の充実を図ります。</p> <p>支援を受けている児童生徒や保護者からの評価については、状況がそれぞれ異なるため、一律の調査は困難であるが、保護者との連携は増えることからその際の意見や感想を大事にとらえるように努めます。</p> <p>心の教室相談員や特別支援教育支援員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の資質を向上させることは重要であり、今後も専門的な知識や児童生徒を理解し対応する方法等について、計画的に研修を行っていきたいと考えます。さらに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーについては、相談の案件によっては教育相談所の指導主事がアドバイスするなどのサポートを行っていきます。</p>
今後の方針等	<p>不登校や特別に配慮が必要な児童生徒を支援するため、「心の教室相談員」及び「特別支援教育支援員」を引き続き配置します。幼児期から継続した支援体制を整え、保育・福祉など関係機関等と連携しきめ細やかな支援に努めます。</p> <p>上田地域定住自立圏共生ビジョンの取組により、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーを配置します。また、教職員が児童生徒一人ひとりを理解した上で、適切な対応ができるよう、指導力向上を図るための研修会を開催します。</p> <p>幼保小の円滑な接続を図るため、保育士を小学校に派遣し、教員との交流を図り、新入生への支援を行います。</p>	

## 平成25年度 事業評価シート

1 -

事業名	地域に信頼され、地域に開かれた学校づくり	担当課	学校教育課
当初目標	学校におけるキャリア教育を支援するため、「上田市ものづくり・キャリア教育推進検討委員会」を2回開催するなど、関係部署との連携を図り、職場体験学習の場の拡大と地域への啓発等を行います。 さらに、特別な支援が必要な小学校低学年の児童に対し、ボランティアによる学習や生活面を支援する活動に取り組みます。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	「上田市ものづくり・キャリア教育推進検討委員会」の開催		
	事業所向けパンフレットや「のぼり旗」による地域への啓発	177	
	広報うえだへの記事の掲載による事業の周知と受け入れ事業所の募集		
目標の達成状況	職場体験学習についてのパンフレットを学校、商工会等を通して配布するとともに、広報うえだにキャリア教育についての記事を掲載し、地域への啓発に努めました。これらにより、キャリア教育に対する事業所等の理解と協力が徐々に得られてきています。また、上田商工会議所が発行している事業所名簿等を参考にして、職場体験学習の受け入れ実績がある事業所を一覧にまとめ、全中学校と情報共有を図りました。 学校を支援するボランティア31人を15校へ派遣し、特別な支援が必要な小学校低学年の児童の学習や生活面を支援しました。		

総合評価	B		
今後の課題等	キャリア教育の推進が強く求められていることから、その重要性について啓発するとともに、事業を充実させるため、事業所の更なる理解を得て職場体験学習の受け入れ先を確保していくことが必要です。 また、特別な支援が必要な児童が増加傾向にあることから、学校現場では更に多くのボランティアによる支援を必要としています。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	キャリア教育は、子どもたちが社会人として自分らしい生き方を確立するためには非常に重要な取組です。特に職場体験学習は、企業を含めた地域全体で子どもたちを育てるための活動でもあり、3日以上の実施を目標として取組を進められることを期待します。  学校を支援するボランティアを積極的に活用していくためには、学校が地域の支援を受け入れる体制づくり（教員の意識改革や学校からの積極的な情報発信）を進めていく必要があると考えます。  学校を支援するボランティアの活用など地域に開かれた学校づくりに当たっては、児童生徒の意見が反映できる仕組についても検討する必要があると考えます。	
	意見に対する考え方	職場体験学習の実施日数は増えつつあり、現在2日（9校）又は3日（2校）で実施しています。学校行事等との調整や受け入れる企業側の理解も必要となるが、今後3日以上の実施を目標として取り組んでいきます。  教育上特別な支援が必要な児童生徒への支援体制を充実するため、一般ボランティア、学生ボランティアに協力を依頼し、小学校の特別支援学級や通常学級において、担任教員をサポートしながら、児童が学校を楽しめるような支援（学習支援や話し相手になるなどの支援）を行います。 また、教員が授業のあいている時間に支援を必要とする児童生徒のいる学級にサポートに入るなど、全校体制による支援にも取り組んでいきます。	
今後の方針等	職場体験学習について、パンフレットの事業所への送付、広報うえだへの記事の掲載、上田地域産業展への児童生徒の発表作品の展示等により、地域や事業所への周知・啓発を図ります。 また、公民館と連携し地域のボランティアを学校へ派遣するための取組を引き続き進めます。		

## 平成25年度 事業評価シート

2 -

事業名	小中学校施設耐震化事業	担当課	教育総務課
-----	-------------	-----	-------

当初目標	屋内運動場の天井材、照明器具、窓ガラスなどの非構造部材の耐震化を実施します。（東小学校・西小学校・北小学校・塩尻小学校・神川小学校・中塩田小学校・塩田西小学校・傍陽小学校・丸子北中学校 計9校実施）		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	屋内運動場の非構造部材耐震化工事の実施（9校）	294,472	
	26年度計画の屋内運動場非構造部材耐震化の実施設計（11校11棟）	2,772	
	第三中学校南・北校舎耐震補強・大規模改造の実施設計、仮設校舎建設工事 「 」の工事費を国の補正予算にともない25年度に前倒し計上		
目標の達成状況	<p>当初予定どおり、9校9棟の屋内運動場非構造部材の耐震化工事が完了しました。</p> <p>26年度に計画していた屋内運動場非構造部材耐震化工事の実施設計が完了しました。（南小、西内小、丸子北小、塩川小、本原小、菅平小、第一中、第六中、丸子中、真田中、菅平中、11校11棟）</p> <p>実施時期が未定であった第三中学校の耐震化事業について、27年度未完了を目標として実施計画に位置付けることができました。一部事業費を9月補正予算で計上したが、説明会での要望や一部建築基準法違反に対応するため、当初計画を再検討しました。その結果、一部校舎の改築や生徒全員を受け入れることができる仮設校舎を建設する等に事業内容を変更し、3月補正予算で事業費を減額しました。</p> <p>国の補正予算成立にともなう追加補正であり、年度内に完了しなかったことから事業費を全額繰り越しました。</p>		

総合評価	C
------	---

今後の課題等	27年度までに学校施設の耐震化を完了するよう求められていることから、校舎の改築等を計画的に進めていく必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会 委員からの意見 意見に対する考え方	<p>小中学校施設は児童生徒の学びの場であるとともに、災害時の避難所としての機能も有することから、その安全確保は非常に重要です。学校が所在する地域の意見・要望を踏まえながら、施設の耐震化が早急に進められることを期待します。</p> <p>評価は事業の改善を図るために行うものです。当初目標に対する達成状況のみで評価するのではなく、計画から結果に至るまでの経過も十分考慮した上で評価すべきであると考えます。</p>		
	<p>校舎、屋内運動場を含めた全面改築などの大規模事業については、地域住民の意見・要望を聴く機会をできる限り設け、早急に整備を進めていきます。</p> <p>25年度においては、当初目標に掲げていなかった追加の事業における進捗状況も踏まえて、評価を行ったところです。今後の評価に当たっては、結果に至るまでの経過などにも十分留意し、総合的に評価していきたいと考えます。</p>		
今後の方針等	<p>屋内運動場の非構造部材耐震化についても計画的に実施し、早急に耐震化を実現するよう努めます。</p> <p>第三中学校の耐震化事業については、26年度6月補正予算で一部校舎の改築や生徒全員を受け入れることができる仮設校舎の建設等の事業費を組替・計上しましたので、早期に事業を進めていきます。</p>		



## 平成25年度 事業評価シート

2 -

事業名	小中学校施設整備事業	担当課	教育総務課
-----	------------	-----	-------

当初目標	<p>小中学校施設について計画的な整備を進めます。                  清明小学校改築事業（外構工事 26年3月竣工予定）                  清明小学校プール改築事業（プール建設、外構工事 26年3月竣工予定）                  第二中学校改築事業（校舎棟・渡り廊下棟・屋内運動場建設第1期工事 26年3月竣工予定）                  小中学校施設・設備について計画的な改修を行い、また、老朽箇所等への日常的な営繕の充実を図ります。</p>
------	---

	実施状況	事業費 (千円)
具体的な取組	清明小学校屋内運動場改築事業（外構工事）	6,436
	清明小学校プール改築事業（本体工事）	51,200
	第二中学校改築事業（本体第1期工事）	371,894
	東塩田小学校屋内運動場改築事業（実施設計）	13,996
	川西小学校屋内運動場改築事業（実施設計）	14,668
	本原小学校管理教室棟改築事業（耐力度調査）	7,350
	第三中学校屋内運動場改築事業（実施設計）	
	第四中学校屋内運動場改築事業（耐力度調査）	1,596

目標の達成状況	<p>清明小学校外構工事は10月に竣工しました。                  清明小学校プール改築事業は、労務単価や資材価格高騰による設計内容見直しに不測の時間を要し、一部事業費を26年度に繰り越しました。                  2か年事業として実施している第二中学校改築事業第1期工事は、入札不調による再入札までに不測の時間を要し、一部事業費を繰り越しました。                  東塩田小学校屋内運動場改築事業の実施設計業務は3月に完了しました。                  川西小学校屋内運動場改築事業の実施設計業務は3月に完了しました。                  本原小学校管理教室棟改築事業の耐力度調査は3月に完了しました。                  第三中学校屋内運動場改築事業の実施設計業務は、説明会での要望や一部建築基準法違反に対応するため、当初計画を再検討した結果、事業内容を変更することとし、3月補正予算で減額しました。                  第四中学校屋内運動場改築事業の耐力度調査は3月に完了しました。                  学校施設の老朽箇所・故障箇所等の日常的な営繕工事を行い、教育環境の充実に努めています。                  前記の～は、耐震化時期が未定であった5校の改築事業であり、27年度末を目標に完了することを実施計画に位置付けることができました。</p>
---------	---

総合評価	C
------	---

今後の課題等	<p>早期に耐震化を完了していくため、計画的かつ早急に施設整備を行う必要があります。                  また、大規模な営繕工事は夏休みに集中するため、計画的に実施する必要があります。</p>
--------	---

上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>施設設備の老朽化が年々進んでいることから、学校からの修繕等の要望は多いと推測します。日常的な修繕や営繕工事に当たっては、できる限り各学校間で不公平がないよう進められることを期待します。</p>
	意見に対する考え方	<p>一般の修繕や営繕工事については、学校との連絡を密にし、緊急性や安全性を最優先に考えながら計画的に実施し、安全で快適な教育環境の整備に努めます。</p>

今後の方針等	<p>現在建設中の第二中学校をはじめ、改築による耐震化を行う東塩田小、川西小、本原小、四中、三中について、早期完了を目指します。</p>
--------	--

## 平成25年度 事業評価シート

2 -

事業名	放課後児童クラブ施設整備事業	担当課	学校教育課
-----	----------------	-----	-------

当初目標	児童館・児童センターに冷房装置を設置し、児童の保育環境の整備を図ります。 （全11館のうち設置要望がある9館について設置予定） 児童の健全育成を担い、災害時要援護者利用施設である朝日が丘児童館（昭和55年建設）の耐震診断を実施します。		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	児童館・児童センター9館に冷房装置を設置（夏休み前に完了）		1,450
	朝日が丘児童館の耐震診断の実施		494
目標の達成状況	当初計画どおり夏休み前までに、児童館・児童センター9館すべてについて冷房装置の設置が完了しました。このことにより、熱中症リスクを軽減し、長期休業中に児童が快適に涼しい環境の中で1日を過ごすことができるようになりました。 朝日が丘児童館の耐震診断が完了し、診断結果について報告を受けました。		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	放課後児童クラブ及び児童館・児童センターについては、老朽化や手狭になっている施設があり、今後も実施計画に位置付けるなど計画的な整備が必要です。 朝日が丘児童館については、耐震診断の結果を踏まえ、耐震補強工事の実施について検討していく必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	児童数が減少している現状において、放課後児童クラブを利用する児童は増加しています。特に共働き世帯にとっては、必要不可欠な施設であると評価します。	
	意見に対する考え方	教育委員会としても利用児童数は増加すると考えています。また、低学年の児童がいる世帯にとっては特に必要不可欠な施設となっています。小学校区ごとに放課後児童クラブがあるので、利用状況を見ながら、利用者にとってより良い施設となるよう、必要な修繕等の整備に努めます。	
今後の方針等	朝日が丘児童館の耐震補強工事の実施について検討します。		

## 平成25年度 事業評価シート

3 -

事業名	市民参加と協働による文化芸術拠点の創造	担当課	文化振興課
-----	---------------------	-----	-------

当初目標	交流・文化施設を拠点とした新たな文化活動を創造するため、市民団体との意見交換や機運を高める事業を行い、文化団体との連携を更に進めます。 また、美術品の新美術館への移管調整を行います。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	文化の薫るまちづくり実行委員会の開催（5月、9月、1月）	0	
	第2回文化の薫るまちづくりの集い「平田オリザ氏講演会」（11月・音楽村）	416	
	上田市文化芸術協会との懇談会（11月）	0	
	美術品確認作業（10月～3月）	0	
	寄贈美術品（大版画5点）の額装	1,700	
目標の達成状況	文化の薫るまちづくりの集いや上田市文化芸術団体との懇談会の開催により、文化団体等との連携・協力体制を築くことができ、更に施設オープンへの機運を高めることができました。 また、市所蔵の美術品等を市立美術館へ円滑に移管するため、台帳整備やハリー・K・シゲタの作品等の確認作業、寄贈品（大版画）の額装を行いました。		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	交流文化芸術センター及び市立美術館の基本理念である『「人にやさしい 夢と未来を紡ぐ 創造都市うへだ」の実現』に沿った文化芸術拠点となるよう、文化団体等との連携を深め、懇談を継続し、市民とともに歩み、成長する施設を目指していく必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	昨年度の提言（市域全体で身近に感じられる運営が行われることを期待する。）を受け、サントミュージーゼの見学会の開催などの取組が行われていることを評価します。  サントミュージーゼの運営に当たっては、市長部局と教育委員会の密接な連携が図られるとともに、運営に市民が積極的に参加されることを期待します。	
	意見に対する考え方	今後もサントミュージーゼが市民の文化活動の発表の場、文化創造の拠点として身近な存在になるよう取り組みます。  サントミュージーゼでは既に市民ボランティアを募集し、運営について積極的な市民参加を求めています。今後も、市長部局と教育委員会が密接な連携を図り、市民協働の運営に努めます。	
今後の方針等	市長部局と教育委員会が連携を深め、市民協働のもとに、交流文化芸術センター・市立美術館をはじめとする市内文化施設の利用促進と文化活動の一層の振興を図ります。		

## 平成25年度 事業評価シート

3 -

事業名	子どもたちと文化芸術との出会いの場づくり	担当課	文化振興課
-----	----------------------	-----	-------

当初目標	市民や団体と連携し、子どもたちが文化芸術に触れる機会を創出します。 小中学校への芸術家派遣 ・芸術家学校派遣事業 4回実施 ・交流文化芸術センターとの連携によるアウトリーチ事業 2回実施 能楽講座 1回実施 子ども文化講座 1回実施 子ども文化祭 1回実施 児童のミュージカル鑑賞事業 1回実施		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	芸術家学校派遣事業(5月、7月、9月、10月)アウトリーチ事業(7~8月、12月)		498
	能楽講座(8月)		200
	子ども文化講座(9月)		64
	子ども文化祭(2月)		240
劇団四季こころの劇場(10月・午前午後2回公演)		162	
目標の達成状況	芸術家学校派遣事業を市内小学校4校で開催し、約670人の児童がルネサンス音楽とダンス・金管四重奏・落語・オペラを鑑賞しました。また、交流文化芸術センターの初アウトリーチ事業として演劇・音楽のワークショップを小学校・中学校各1校で開催し、242人が参加しました。 上田城跡能にあわせ市民会館で能楽講座を開催し、小中学生52人が能楽体験に参加(うち12人は舞台体験へも参加)し、古典芸能に親しむ機会となりました。 「みんなでつくるパフォーマンス」をテーマに子ども文化講座を創造館で開催し、小中学生等約160人がダンス鑑賞やダンス体験をしました。 子ども文化祭を丸子文化会館で開催し、約550人が舞台発表・展示発表を行い、舞台経験、相互交流、運営参加を通して自己表現力を高める機会となりました。 劇団四季主催「こころの劇場」のミュージカル公演を市民会館で開催し、市内及び近隣市町村児童(小学6年対象)約2,100人が鑑賞しました。		

総合評価	A
------	---

今後の課題等	青少年に一流の芸術に触れてもらい、豊かな情操を育んでもらうためには、長期的な展望のもと、継続した取組が必要です。また、今後は、文化芸術活動の新たな拠点となる交流文化芸術センター及び市立美術館を活用した芸術鑑賞・体験機会を創出していくことが必要です。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	芸術家学校派遣事業などは、子どもたちの情操教育に非常に役立つ取組であると評価します。  芸術家学校派遣事業は、一流の芸術を体験できることに加え、子どもたちの将来の進路選択の幅を広げる取組です。今後の取組に当たっては、小学校6年間のうち少なくとも1回はすべての児童が体験できるよう学校との連携を図るとともに、内容についても充実されることを期待します。	
	意見に対する考え	芸術家学校派遣事業については、交流文化芸術センターとも連携・調整を図り、子どもたちの情操教育に役立つ取組を推進していきます。  と同様に、学校や交流文化芸術センターとの連携を図り、充実した内容になるよう努めます。	
今後の方針等	交流文化芸術センター及び市立美術館での青少年育成事業とも連携した取組を検討するとともに、芸術家による学校へのアウトリーチ活動(出前授業など)の充実や当施設を活用した芸術鑑賞・体験機会の創出に努めます。		

## 平成25年度 事業評価シート

3 -

事業名	史跡等整備事業	担当課	文化振興課
-----	---------	-----	-------

当初目標	史跡等の整備を推進し、無形民俗文化財等の保護・継承を図ります。 上田城跡整備関係機関との協議及び資料収集 上田城跡二の丸及び三の丸発掘調査 史跡上田城跡検討委員会の開催 史跡信濃国分寺遺跡発掘調査（整理作業・報告書作成） 市内文化財の保存・活用		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	上田城跡公園用地の取得にともなう協議及び測量	880	
	上田城跡二の丸及び三の丸の発掘調査	25,730	
	検討委員会の開催（10月）及び復元資料の収集	2,544	
	信濃国分寺発掘調査の整理作業及び報告書作成	5,000	
	指定文化財の保存・後継者育成支援	5,562	
目標の達成状況	上田城跡公園内の民有地公有化に向け、所有者との協議及び用地測量を実施しました。櫓等建造物復元の根拠となる写真、図面等の資料は発見できず復元に関する進展はありませんでした。 二中及び清明小校舎改築にともなう三の丸発掘調査を実施しました。 第2期上田城跡整備実施計画検討委員会が発足しました（10月）。 22～24年度に実施した史跡信濃国分寺跡発掘調査の整理作業及び報告書作成を実施しました。 国重文法住寺虚空蔵堂、市指定塩野神社の修理工事等の補助、県宝旧倉沢家の表門袖塀の修理、無形文化財後継者育成補助を実施しました。		

総合評価	C
------	---

今後の課題等	上田城跡については、公園の利便性に配慮しながら、策定した保存管理計画・整備基本計画に基づいた整備を進めていくことが必要です。 信濃国分寺跡については、住宅地と隣接しているため、住民への説明・報告を随時実施し、周囲の理解と協力を得ながら整備を進めていくことが必要です。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	史跡等整備事業のうち上田城跡の整備が期待どおりに進展しなかったことから、評価Cであると考えます。信濃国分寺跡整備事業も含め、史実に忠実な整備が求められている点から考えると単年度による評価は難しく、長期的な視点に立って着実に進められることを期待します。	
	意見に対する考え方	当該事業を短期間で評価することには困難な面がありますが、制度上単年度による評価が求められています。したがって、今後は長期的目標の中での単年度計画（目標）を設定するよう内容等を検討します。今後も、長期的な視点に立って、史実に忠実な整備を着実に進めていきます。	
今後の方針等	上田城跡については、公園としての機能・役割に配慮しながら、計画に沿った保存、管理及び整備を進めます。特に27年度後半から28年度にかけて、大河ドラマの影響により多くの来場者を迎えることになることから、これに対応した史跡整備を集中的に進めます。 信濃国分寺跡については、史跡内居住者、周辺自治会など地域住民の理解を得ながら、計画に基づいた整備を進めます。		

## 平成25年度 事業評価シート

3 -

事業名	博物館における学習機会の提供	担当課	博物館
-----	----------------	-----	-----

当初目標	郷土の文化・歴史、偉人の業績をテーマとした特別展や講座（市立博物館6、山本鼎記念館9、信濃国分寺資料館9、丸子郷土博物館1、ともしび博物館8）や博物館施設をめぐるスタンプラリーを開催し、子どもたちや市民が歴史や文化に触れる機会を創出します。		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	企画展「新収蔵品展」（会期中入館者5,730人）		584
	特別展「おらほの縄文土器」（会期中入館者988人）		519
	特別展「ありがとう！山本鼎記念館」（会期中入館者1,789人）		1,199
上記以外に、各施設において企画展、講座等を開催			
目標の達成状況	特別展・企画展として、上田市立博物館で「新収蔵品展」、信濃国分寺資料館で「おらほの縄文土器」、山本鼎記念館で「児童生徒美術展上小地区展」や特別展「ありがとう！山本鼎記念館」などを開催するとともに、上田市内博物館めぐりスタンプラリーを実施するなど、地域の文化・歴史に触れる機会を創出しました。（上田市立博物館7、山本鼎記念館10、信濃国分寺資料館9、丸子郷土博物館1、ともしび博物館7の企画展、特別展、講座を実施）		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	<p>常設展示については、リニューアルも実施しているが、最新の情報をよりわかりやすく解説し、リピーターを含めた来館者の増加を図る必要があります。</p> <p>また、各施設において、郷土の歴史や文化の継承と学習機会の充実を目指し、講座を継続的に実施しています。各講座とも受講定員を上回るものが多い状況ですが、事業がマンネリ化しないことが必要です。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>博物館については、展示施設としてとらえ入館者数で評価される傾向があるが、生涯学習活動の拠点施設としての役割も担っており、数多くの自主事業を実施している特長があります。特に市立博物館における「古文書講座」、信濃国分寺資料館における「市民講座」「親子歴史体験教室」「学校出張歴史体験教室」は継続的に行われている特色ある事業であり、丸子郷土博物館やともしび博物館における事業とともに引き続き実施されることを期待します。あわせて、各事業の内容の充実を図ることや積極的な広報を行うことも必要であると考えます。</p> <p>平成28年放映のNHK大河ドラマに「真田丸」が決定したこともきっかけにして、実施事業の充実が図られることを期待します。</p>	
	意見に対する考え方	<p>特色のある事業は継続しながら、より充実した内容となるよう計画します。また、広報活動を積極的に行い、新たな参加者の獲得にも努めていきたいと考えます。</p> <p>NHK大河ドラマに関連する企画展を計画し、博物館においても「真田丸」を盛り上げていきたいと考えています。</p>	
今後の方針等	<p>常設展、展覧会、講座等の内容を市民のニーズにあった魅力あるものとし、各施設へのリピーターの増加と各種講座等への新たな参加者の増加に努めます。</p> <p>また、公開講座などの単発の企画を実施し、学習の機会を増やすとともに、新たな利用者を獲得し事業のマンネリ化の防止に努めます。</p>		

## 平成25年度 事業評価シート

4 -

事業名	社会教育施設整備事業	担当課	生涯学習課
-----	------------	-----	-------

当初目標	西部公民館の建替に向け、用地及び整備計画について検討します。 24年度に実施した耐震診断結果に基づき、神川地区公民館の補強工事について検討します。 上田図書館の整備に向け、建設地や規模等の検討を開始します。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	西部公民館の建替に向けた検討		
	神川地区公民館の整備に向けた検討		
	上田図書館の整備に向けた検討		
目標の達成状況	西部公民館、神川地区公民館、上田図書館の各施設整備について、他の公共施設整備との調整が必要であることから、関係部局と個別の調整・検討を進めました。		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	豊かな生涯学習社会の実現に向け、老朽化等が進む社会教育施設について、引き続き計画的な整備を行い、生涯学習環境の充実を図っていくことが必要です。 西部公民館の建替 神川地区公民館の整備 上田図書館の整備		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	図書館については、上田情報ライブラリー、丸子図書館、真田図書館が整備され、必要な施設整備が進められてきたと考えます。引き続き、公民館や図書館などの社会教育施設の整備が計画的に進められることを期待します。	
	意見に対する考え方	今後も社会教育施設全体の整備について検討し、計画的に整備を進めていきます。	
今後の方針等	西部公民館については、建設場所及び施設規模等の整備計画について引き続き検討を進めます。 神川地区公民館については、24年度実施した耐震診断結果に基づき、現在地で耐震補強工事を実施するのか、地元要望や地域内分権のまちづくり拠点となる可能性を踏まえ、別の場所に移転し、他課の事業とあわせ整備するのか、引き続き検討を進めます。 上田図書館については、場所を含めて整備に関する検討を進めます。		

## 平成25年度 事業評価シート

4 -

事業名	地域が学校を支援する事業	担当課	生涯学習課
-----	--------------	-----	-------

当初目標	地域の教育力の活用により、新しい公共（参加と協働）による学校づくりができるよう、地域が学校を支援する仕組の拡大を図ります。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	地域による学校支援の実施（しおだっ子応援団ほか）	206	
	キャリア教育支援の実施（のぼり旗作成）	176	
	学校職員や公民館職員等が学社連携連絡会に参加し懇談 学社連携事業の先進地を視察（地域住民・公民館職員等）	0 0	
目標の達成状況	<p>塩田中学校における「しおだっ子応援団」、第三中学校における西部公民館の学校支援ボランティア育成講座「花と庭づくり教室」、浦里小学校（コミュニティ・スクール）等の24年度以前から行われている学校支援に加え、西小学校では清掃の時間に児童とともに掃除するお掃除支援を本実施するとともに、希望する6年生を対象に放課後宿題サポートを週1回、発達障害児童の支援を週2回の頻度で開始しました。南小学校では、児童の読書活動を支援するボランティアによる読み聞かせ活動を4月から本実施しました。真田地域の長・傍陽・本原の各小学校では、登録ボランティアによる学習支援、読み聞かせ、環境整備支援等を開始しました。</p> <p>さらに、北小学校において、26年度からクラブ活動を支援するための準備を進めました。</p> <p>また、上野が丘公民館においては、小学生を対象に大人が学習や遊びを通して子どもの居場所をつくる「夏休みわいわい塾」、川西公民館や真田中央公民館においては、通学合宿を本年度も開催しました。</p>		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	<p>地域の教育力の活用により、新しい公共（参加と協働）による学校づくりができるよう、地域が学校を支援する取組を更に拡大していくことが必要です。</p> <p>また、学校支援が長期になるとボランティアが減少する傾向にあることから、支援が一過性又は膠着したものにならないよう、地域住民が主体的かつ継続的に学校支援ボランティアに参加し、地域と学校がともに子育てをするという意識を醸成していくとともに、組織の活性化などを図り、支援体制を構築していくことが必要です。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>地域が学校を支援する活動については、ボランティアを前提として実施しているところであるが、各種資料作成に関する費用やボランティアの資質向上のための研修費用（講師謝礼）などの必要最小限の経費に対する配慮を望みます。</p> <p>学校支援ボランティアに参加した経験からの意見になるが、地域が学校を支援する事業が成果を上げるためには、学校と地域をつなぐコーディネーターの育成に加え、学校からの要請に基づき支援することと子どもたちの個人情報保護を徹底することが必要であると考えます。</p>	
	意見に対する考え方	<p>ボランティアの育成等に向け、予算も含め支援体制について検討・配慮する中で、地域が学校を支援する取組の拡大に努めていきます。</p> <p>公民館等の職員のみならず、地域住民も対象としてコーディネーターの育成に努めるとともに、学校支援の実施に当たっては、個人情報の保護等についても配慮して進めていきます。</p>	
今後の方針等	<p>「ますます重要度を増す取組として、拡充して実施していくべき」とする「市民による事業評価」における提言を踏まえ、引き続き地域が学校とともに子どもを育てるための支援体制を構築します。</p> <p>支援体制を構築していくためには、学校が求めている支援のニーズを把握する必要があることから、学校との情報交換の機会を増やし、社会教育機関と学校の情報の共有や信頼関係の構築に努めるほか、学校支援に意欲を持っている地域の人材を発掘し、ボランティアの育成を図ります。</p> <p>上田市ものづくり・キャリア教育推進検討委員会との連携により、中学生の職場体験学習を受け入れる地域の事業所の増加について支援します。</p>		



## 平成25年度 事業評価シート

4 -

事業名	青少年健全育成の推進	担当課	生涯学習課
-----	------------	-----	-------

当初目標	青少年育成関係団体が青少年育成に関する課題解決に連携して取り組むことができるよう、公民館単位で協議の場を設けることを支援します。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	青少年育成推進指導員の委嘱		1,963
	青少年育成関係団体の連絡会の開催		0
目標の達成状況	市内9公民館中7公民館において、青少年育成関係団体の連絡会を開催し、青少年育成に関する課題解決のための連携を図ることができました。 また、青少年育成推進指導員が育成会長研修に参加し、情報交換と活動内容についての理解を深めるなど、団体間の連携を図ることができました。		

総合評価	C
------	---

今後の課題等	市内9公民館の全地域において、青少年育成関係団体が連携して取り組むための組織づくりを引き続き進めていく必要があります。 また、上田地域における青少年育成推進指導員制度は、青少年育成関係団体の連携を図る役割を担っているが、その機能を十分に果たすことができるよう、関係団体との連携のあり方について協議・検討していく必要があります。		
上田 市教育 行政 評価 懇話会	委員 から の 意見	青少年育成については、行政、学校、家庭及び地域が各自の役割を認識しながら、連携して継続的に取り組む必要があると考えます。  青少年育成関係団体との連携について、公的団体に限定せずに幅広く連携を図られることを期待します。	
意見 に対する 考え方	学校・家庭・地域の一層の連携を図るとともに、青少年育成関係団体と幅広く連携を図る中で、青少年育成活動の拡充に努めていきます。		
今後の方針等	青少年育成推進指導員制度は、現在、上田地域のみで実施しているが、「市民による事業評価」における提言を踏まえ、この制度の適用の有無にかかわらず、各地域において関係団体が連携して青少年の育成課題に取り組むことができる体制づくりを検討します。		

## 平成25年度 事業評価シート

4 -

事業名	人権同和教育推進事業	担当課	生涯学習課
-----	------------	-----	-------

当初目標	人権施策基本方針に基づき、学校、家庭、地域、企業、職員に対する人権同和教育・啓発を推進します。 講演会は250回以上・参加者18,000人以上、研修会は530回以上・参加者17,000人以上を目標に開催し、より一層の人権意識の高揚を図ります。		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	学校人権同和教育		3,999
	地域人権同和教育		4,462
	社会教育団体等人権同和教育の推進		927
	企業人権教育の推進		200
	解放子ども会事業		750
目標の達成状況	学校、地域、団体、企業等全体で、講演会については256回開催し24,012人が参加、研修会については540回開催し18,791人が参加、それぞれ数値目標を達成しました。		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	平成25年2月に同和問題に関わる差別事象が発生したことを受け、教育啓発における同和問題の扱いを高めていく必要があります。また、すべての市民が差別されることなく、また、差別することのないよう人権同和教育と啓発を推進していく必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	研修会等の開催回数及び参加人数は数値目標を達成しているが、人権同和教育については、差別のない社会を構築していくために、引き続き粘り強く実施されることを期待します。  学校、地域、企業等で人権同和教育が実施されています。その中でも地域の研修会等における参加者は、自治会の役員などに限定される傾向にあるので、より多くの地域住民が気軽に参加できるよう、内容等の工夫を図る必要があると考えます。	
	意見に対する考え方	人権同和教育は、一朝一夕に成し遂げられるものではないため、今後も教育の機会を継続して設け、「差別のないまちづくりの実現」に向け取り組んでいきます。  各公民館の社会教育指導員等と協力し、研修会のテーマや内容が魅力あるものとなるよう工夫するとともに、より多くの地域住民が自ら進んで参加できる研修会や講演会となるよう検討していきます。	
今後の方針等	地域、学校、企業等で行う研修会等においては、同和問題を含めた「あらゆる差別がなくなる」ように人権同和教育や啓発活動に取り組みます。 また、公民館等で開催する研修会や講演会については、市民意識調査の結果から「効果的である」とされていますので、従来どおり教育と啓発活動の中心に据え、参加者の人権意識の向上を図ります。		

## 平成25年度 事業評価シート

5 -

事業名	生涯スポーツ活動の推進	担当課	スポーツ推進課
-----	-------------	-----	---------

当初目標	<p>市民のスポーツへの関心や参加意欲を促進するため、多様なスポーツに関する情報発信の取組として、ホームページや広報うえだ等によりスポーツ団体の活動内容を周知します。</p> <p>また、競技力向上のための支援を行うとともに、だれもが気軽にスポーツに親しめるスポーツイベントや教室を開催します。</p>		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	「上田スポーツプレス」へ情報掲載(6回)	300	
	「広報うえだ」へ情報掲載(65回)	0	
	スポーツイベント(40事業)	14,345	
	スポーツ教室(49教室)	6,569	
	全国大会等出場補助金	10,940	
目標の達成状況	<p>多くの市民がスポーツに親しむ機会拡大のため、上田市ホームページのほか「上田スポーツプレス」や「広報うえだ」等によりスポーツ団体の活動内容やスポーツイベントの情報提供に努めました。</p> <p>また、競技力向上のため、全国大会等出場者に必要な支援を行うとともに、気軽にスポーツに親しめるスポーツイベントや教室を開催しました。</p>		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	<p>多くの市民がスポーツに親しむ機会拡大のため、スポーツ関係の情報発信及び競技力向上のための支援を継続して行う必要があります。</p>		
上田市教育行政評価懇話会 委員からの意見 意見に対する考え方	<p>数多くのスポーツイベントやスポーツ教室を開催することができていると評価します。一方で、参加者が固定化している傾向があるので、「生涯スポーツ社会」を実現していくためには、新たな参加者の増加が今後の課題であると考えます。</p> <p>国際大会等に活躍する選手育成(支援)のために、「上田スポーツプレス」などにおいて、選手や活動内容を広報することも重要であると考えます。</p>		
	<p>スポーツイベントやスポーツ教室については、参加者が固定化しつつある課題があることから、市民ニーズに添った新たなスポーツイベントや気軽にできる軽スポーツの紹介等を検討します。</p> <p>国際大会等に上田市関係者が活躍することは、市民がスポーツを行うきっかけにもなることから、今後も「上田スポーツプレス」などにおいて活動内容等を紹介します。</p>		
今後の方針等	<p>気軽にスポーツに親しめるよう情報発信に努めるとともに、競技力向上のための必要な支援を行います。</p>		

## 平成25年度 事業評価シート

5 -

事業名	総合型地域スポーツクラブ支援事業	担当課	スポーツ推進課
-----	------------------	-----	---------

当初目標	総合型地域スポーツクラブとの合同会議を年2回開催し、活動内容を周知するための情報提供（ホームページや広報うえだへの掲載）や合同で開催する事業を企画し、総合型スポーツクラブの支援を図ります。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	「上田スポーツプレス」へスポーツクラブの情報掲載（6回）	300	
	「広報うえだ」への情報掲載（20回）	0	
	スポーツクラブ合同イベント「うえだスポーツナビ」の開催（1回）	0	
	スポーツクラブ合同会議の開催（1回）	0	
目標の達成状況	<p>スポーツクラブの活動内容を「上田スポーツプレス」や「広報うえだ」で紹介し、スポーツクラブの周知に努めました。</p> <p>行政との協働イベント「うえだスポーツナビ」や合同会議を開催し、情報交換と組織充実に努めました。</p>		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	<p>スポーツクラブの活動がスポーツに気軽に親しめる場としての役割を担っていることを今後も広く市民に周知していく必要があります。</p> <p>スポーツクラブが個々に活動するだけでなく、連携した啓発活動や合同スポーツイベント等を開催し、継続した支援を行う必要があります。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>各総合型地域スポーツクラブの運営状況は厳しいと聞いています。会員の増加、特に大人の会員を増やしていくことが今後の課題であると考えます。</p>	
	意見に対する考え方	<p>総合型地域スポーツクラブはクラブ員の会費により運営されていることから、今後も多世代の市民に対して活動内容を周知します。</p>	
今後の方針等	<p>行政とスポーツクラブとの連携、協働を一層図り、情報交換会の開催やスポーツイベントの開催、スポーツクラブの継続した運営のための支援を行います。</p>		

## 平成25年度 事業評価シート

5 -

事業名	スポーツ施設整備事業	担当課	スポーツ推進課
-----	------------	-----	---------

当初目標	スポーツ施設の整備を進めます。 ・自然運動公園50mプール全面塗装改修工事 ・上田城跡公園陸上競技場4種公認取得改修工事 スポーツ施設の整備改修計画を作成します。
------	--

具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)
	体育施設のあり方検討会の開催(1回)	0
	主な施設整備 上田城跡公園体育館アリーナ及び柔剣道場床修繕工事(1,292)、上田城跡陸上競技場4種公認取得改修工事(2,856、繰越5,439)、上田城跡公園体育館耐震化診断業務委託(5,880)、染屋台多目的グラウンド外周部舗装工事(8,390、繰越16,610)、市民の森深井戸ポンプ更新工事(3,133)、アクアプラザ上田サウナ室改修工事(1,255)、塩田の郷マレットゴルフ場散水設備等改修工事(2,310)、自然運動公園50mプール塗装改修工事(繰越13,000)	

目標の達成状況	施設整備については、当初予定した事業に加え、入札差金等も活用し積極的に進めることができました。また、台風災害の復旧においても、予備費等の活用により対応することができました。 自然運動公園50mプール塗装改修工事は、入札不調により26年度に繰り越しました。また、大雪による工期延長で、上田城跡公園陸上競技場4種公認取得改修工事と染屋台多目的グラウンド外周部舗装工事も、26年度に繰り越しました。 施設の整備改修計画については、前段階である施設構想検討案を作成したが、改修計画の作成には至りませんでした。
---------	--

総合評価	C
------	---

今後の課題等	市民が安心して利用できる施設整備の推進 将来的な施設整備基本構想の策定 施設整備改修計画の策定
--------	---

委員からの意見	スポーツ施設については、5 - 生涯スポーツ活動を推進していくためにも、その利便性の向上(利用しやすい環境を整えること)が求められていると考えます。  各スポーツ施設は老朽化が進んでおり、施設整備を推進していく必要があります。今後の施設整備計画の策定に当たっては、国際大会を誘致できるような核となりうる施設の整備を検討材料の一つに加えてほしいと考えます。(一流選手のプレーを見ることは、競技に取り組む子どもたちの非常に良い刺激になります。)
---------	--

意見に対する考え方	施設利用者及び体育協会等の関係団体からの意見や要望を聞きながら、施設利用の利便性向上に努めます。  スポーツ施設整備基本構想や整備改修計画を策定する上で、トップアスリートが利用可能な施設整備についても検討していきます。
-----------	---

今後の方針等	関係団体等の意見を踏まえ、将来的な施設整備基本構想を策定します。 当面必要となる施設整備の修繕改修計画を策定し、計画的に整備を進めます。
--------	---